

学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ

2023年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	通訳入門 I		（ NCR13C ）
講義名（コード）	通訳入門 I		（ NCR13CX ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通訳の基礎である逐次通訳の基礎を学ぶ。逐次通訳演習を通して、英語・日本語両方のコミュニケーション能力を向上させる。
全体の内容と概要	ソングブック、リマフイス、ノートテイキングなど、通訳に必要なスキルを学ぶ。例文を何度も発話することで「使える」表現として定着させ、クイックレスポンスができるよう訓練する。
授業時間外の学修	ういすぱリング シャドーイングやリピーティングなど、自習できるものは普段から実践する。 既習内容を復習し、定着させる。
履修上の注意事項等	積極的な発話を心掛ける。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	通訳の種類・手法を理解する	授業内容の紹介。通訳の種類や通訳手法などの紹介。 平易な例文を用いてリテンション（短期記憶）を体験してみる。
2	サマライズする	聞いて理解した内容を、要点をまとめて話す練習をする。
3	シャドーイングの理論を学び、実践する	シャドーイングとは何か、通訳練習における利点を学び、短い例文を用いて実践する。
4	リプロダクションする	聞こえた英文を記憶し、自分で発声して英文を「再現する」トレーニングを行う。
5	サイトトランスレーションのやり方を理解する	チャンクごとに区切り、前から訳すトレーニングを行う。
6	ノート・テイキング	聞いて理解した内容を、ターゲット言語で再現することを考えながら簡潔にメモを取るスキルを学ぶ。
7	聞いた内容を理解し、日本語に訳す (E→J Comprehension)	聞いた英語を理解し、その内容を漏れなく正確に日本語で説明する練習をする。
8	日本語でメモを取る (E→J Note-taking)	聞いて理解した内容を、日本語で再現することを考えながら簡潔に記録する訓練をする。
9	日本語に訳す (E→J Delivery)	話し手のメッセージを、聞き手に分かり易く伝える練習をする。漏れなく伝えられるよう、メモを見ながら話す練習をする。
10	聞いた内容を理解し、英語に訳す (J→E Comprehension)	聞いた内容を正確に理解し、英語で再現できるよう、サマライズする練習をする。
11	英語でメモを取る (J→E Note-taking)	聞いた内容を正確に理解し、要点を英語でメモする練習をする。
12	英語に訳す (J→E Delivery)	話し手のメッセージを、聞き手に分かり易く伝える練習をする。漏れなく伝えられるよう、メモを見ながら話す練習をする。
13	まとめ・復習	前期履修内容のまとめ、復習
14	テスト	前期テスト
15	FB	テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	ベレ出版 音読パッケージ 中級レベルトレーニング
参考文献・資料等	
備考	